

# 夏秋ミニトマトの「摘房」による収穫ピークの軽減

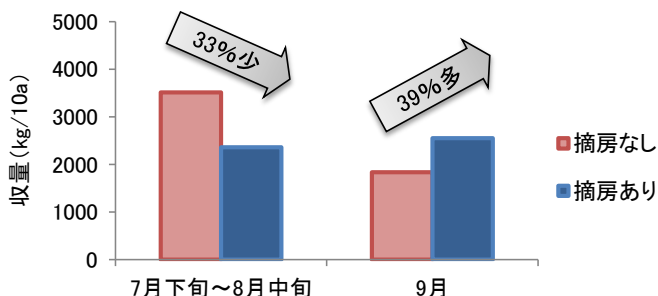
## 要約

夏秋ミニトマト課題は、夏に大きな収穫ピークがある事です。「摘房」は花房を摘み取ること、ミニトマトの収量を減らす栽培技術です。夏が来る前に「摘房」を行うと、販売単価が安い夏の収量が少なくなり、販売単価が高い秋の収量が多くなるため、収益を下げずに収穫ピークを軽減する事ができます。

## 研究成果の概要

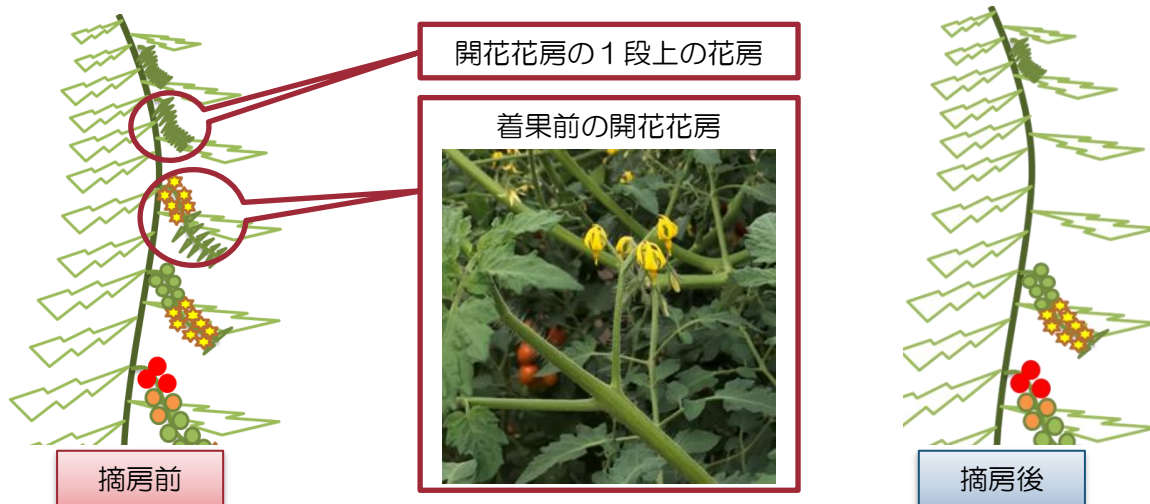
### 1 「摘房」試験の結果

- ◆ 中南地域の基幹品種「サンチェリーピュア」に対して、摘房の試験を行いました。
- ◆ 「摘房あり」区は「摘房なし」区より、夏（7月下旬～8月中旬）の収量が33%少なく、秋（9月）の収量が39%多くなり、夏と秋の収量差が小さい事がわかりました。



### 2 「摘房」の方法

- ◆ 実がなる前の開花花房とその1段上の花房を、根元からすべて摘み取ります
- ◆ 夏前の6月20日頃に行います



## 関連情報

- ◆ 夏秋ミニトマトは栽培が簡単で収益性が高く、生産拡大中の品目です  
【H24】栽培面積37ha、収穫量1,630t ⇒ 【H29】栽培面積48ha、収穫量2,270t
- ◆ 課題は、夏に大きな収穫ピークがあり、秋の収量が少なくなる事です
  - ① 収穫作業に多くの時間がかかり、その他の管理作業が十分にできない
  - ② 樹に大きな着果負担がかかり、秋の樹勢が弱まる
  - ③ ミニトマトの販売単価は、夏は安く、秋は高い